

## バスケットボール戦評記入用紙

大会 平成 29 年度 関東高等学校バスケットボール大会 埼玉県予選会  
 日時 平成 29 年 5 月 20 日 土曜日 第 3 試合 Eコート 時刻 13:00  
 記入者名 中村 敬子

A チーム	得点		得点	B チーム
<u>山村学園</u> 高校	<u>61</u>	$\left( \begin{array}{r} 15 - 14 \\ 21 - 16 \\ 7 - 29 \\ 18 - 31 \end{array} \right)$	<u>90</u>	<u>埼玉栄</u> 高校

### < 戦 評 >

新人大会を制し 2 連覇を狙う山村学園と、U - 18 日本代表候補選手である神山、石川を擁し、充実した戦力を持つ埼玉栄の決勝戦。

- 1 P お互いにハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。山村学園 # 6 のリバウンドシュートで先制する。# 11 の 1 対 1、# 13 の 3 P で加点していく。一方、埼玉栄は山村学園のディナイディフェンスに手こずり、攻めてはいるもののいいシュートに結びつかず得点がない。5 分で # 4 ファウル 3 つ、つづいて、大黒柱の # 7 も 4 つ目のファウルを犯し大ピンチ。しかし他のメンバーが何とか踏ん張り 15 - 14 山村学園 1 点リードで終了。
- 2 P 埼玉栄はファウル 3 つの # 4、4 つの # 7 を使えず、# 5 がシュート、リバウンドと奮闘するが、3 分間ノーゴールという苦しいスタートになる。山村学園は # 6 のジャンプシュート、# 5 から # 11 への合わせ、# 4 の 3 P と連続得点。22 - 14 と一気にリードを広げる。埼玉栄はたまたまらず、# 4、# 6、# 8 の 3 年生を投入。さらに、# 9 も加えなんとか攻撃の糸口を見いだそうとする。# 5 がチームを引っ張り、# 6、# 9 の 3 P で耐えて、36 - 30 山村学園 6 点リードで終了。
- 3 P 出だし山村学園 # 6 のレイアップがはずれ、埼玉栄 # 16 が逆に得点に結びつけたところから、ゲームの流れが一気に埼玉栄に傾いた。プレッシャーを強くして、チャンスとうかがえば、ダブルチームを仕掛ける積極的なディフェンスを繰り広げ、攻撃では、# 9 が連続 3 P で 36 - 38 と逆転。開始 4 分 36 - 40 と埼玉栄のリードが 4 点になったところで、山村学園はたまたまらずタイムアウト。しかし、一度傾いた流れは元には戻らず、山村学園は 6 分までノーゴールと苦しい試合となる。対する埼玉栄は、攻撃の手をゆるめず、このピリオド 7 - 29 と一方的な展開で制する。
- 4 P 何とかディフェンスから立て直したい山村学園だったが、一度火のついた埼玉栄の攻撃を食い止めることはできず、6 分で 49 - 75 とさらに埼玉栄がリードを広げる。山村学園もこのままでは終われないと必死に食らいつくが、埼玉栄は最後まで # 7 を投入することなく、61 - 90 で試合終了。埼玉栄が 3 年ぶりの優勝を決めた。

前半は山村学園のペースで進んだゲームの流れが、後半、埼玉栄 # 9 の連続 3 P で一気に変わり、3 P の重要性を再確認した試合であった。